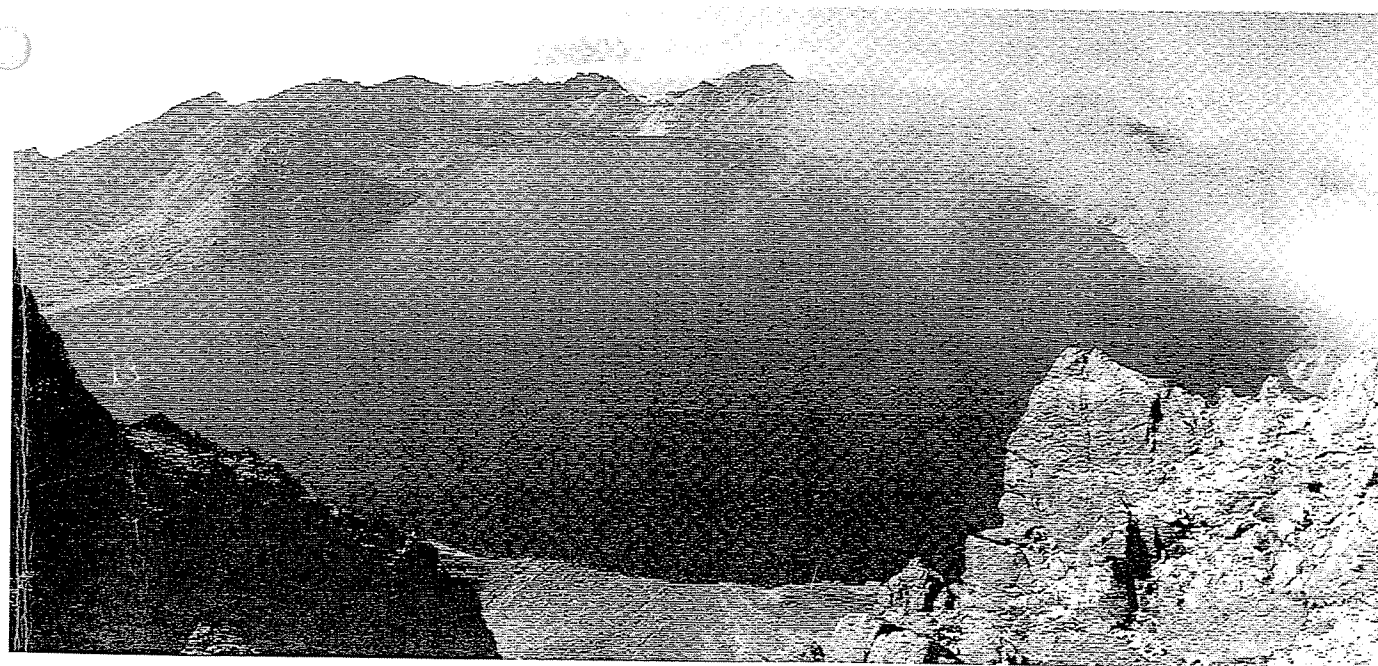


天池人文

～我々が考え、我々が実行し、我々が支援し、我々の夢を実現する～

CHONJI CULTURE

Vol. 3 No. 1 1999年1月 総第21期



天池倶楽部 発行

CONTENTS / 目录 / 목차 / 目次

卷頭エッセイ	1
新たな歴史は小部屋から始まる	2
アリラン峠を越えて	4
豊かな民族自治州を築く	13
経済発展より教育を	18
歴史を学ぼう	19
還郷女 (創作詩)	20
日中韓漢字の話 1	21
数字で見る経済	23
第47回天池倶楽部定例会のお知らせ	24
天池倶楽部助け合いコーナー	25
中国朝鮮族研究会設立	26
在日中国朝鮮族データベースの設立について	27
中国朝鮮族1998年忘年会開催	28
忘年会と親善サッカー試合の情景	29
天池倶楽部からのお願い・編集後記	30

새 세기와 우리의 삶

김만수

이제 드디어 20 세기 마지막 한해를 맞이하게 되었다. 평소 생활에 묻혀 있을 때에는 세월의 흐름에 둔감한 나였지만 20 세기의 마지막 한해라는 이말에는 분명 그 어떤 느낌이 든다.

20 세기는 인류 역사상 가장 폭력적인 세기였으며, 가장 과학적인 세기이라고 한다. 또한 가장 불확실한 세기이고 가장 불안했던 세기이기도 하고도 한다.

나와 동세대사람들은 직접 그 참담한 전쟁시절은 체험하지 못했지만 그러나 많은 시대의 소용돌이와 더불어 살아왔다.

지나간 옛날이 주마등처럼 눈앞을 스친다.

해마다 식량이 모자라 할머니, 어머니가 쌀을 꾸러 나갔을때에 우리, “모주석의 훌륭한 홍소병”들은 “모택동선집”을 랑독하면서 신중국에 태어난것을 자랑스러워 했었다...

“퇴봉”을 따라배워 인민을 위해 봉사한다고 동네의 “오보호” 할머니집에 가 물도 길어들이고 청소도 해 드리는 “호인호사”도 곧 잘 했었다..

중학에 들어가서는 우리는 과학가가 되려는 꿈에 불탔다. 화학경, 전경운... 이들은 우리들이 공부하는 동력이기도 했다.

이성에 대해 눈뜨기 시작하는 사춘기였지만 이성과의 교제는 금물이었다. 고등학교 3 학년때 집체무에서 여학생들의 손을 한번 겨우 잡아보고 전기가 오더라고 며칠이나 애타게 애타던 날이 어제같다.

대학세월은 참으로 재미있었다. 모든것이 자유로웠다. 허나 처음으로 오는 자유를 누릴줄을 몰랐었다. 생각해 보면 후회스러운것들이 많기만 하다. (다시 한번 기회가 있으면 아주 멋지게 보낼수 있으리라.)

그리고 1989 년 6 월 4 일, 나는 그날을 꼭 기억하고 있다...

사회에 나오니 모든것이 바뀌었다. 사회에서 성공은 거의 모두가 “부”와 연관되어 있다. 적어도 현상적으로는 그렇다.

가치관의 혼동속에서 많은 인텔리들은 해외에서 자신의 새 출로를 찾으려 했다.

나 역시 그러했다. 그리고 이 낯선땅에서 삶의 터전을 마련하기 위해 몇년을 악전고투하다보니 이렇게 벌써 세기의 마지막 한해에 들어서게 되었다.

이 세기의 갈림길에서 살아온 지난날을 돌이켜 볼때 지나온 과거가 밍지만은 않다.

가난했었지만 행복했었던 추억도 남아있다. 단 자신의 삶을 살아왔다고 보기 보다 시대에 떠 밀려 왔을뿐이란 생각에 서글플때가 많다. 아마 그때엔 자신의 삶을 생각할 여유도 없었나 본다. 우리의 과거는 우리들이 선택한것보다는 시대가 지워준것이 많다.

새 세기는 분명 다를것이다. 분명 달라야 한다. 새 세기는 우리가 자신의 길을 선택하고 (정녕 그 길이 틀렸다고 해도) 이룩하는 시대일것이다. 그러해야 할것이다. 그렇게 만 들어야 한다.

新たな歴史は小部屋から始まる

丁 章(詩人)

これまで私は何かと延辺にこだわりながら生きてきた。そのことが在日朝鮮人を生きている人間として私には当然のことに思えるからである。どうして当然のことに思えるのだろうか。そのような自問が愚問に思えるほど、私たちが在日同胞と延辺同胞の境遇は似ている。朝鮮半島外、つまりはらからの半島の外部で暮らしている私たちは、半島に暮らしている同胞たちとは違った周縁者としての立場の悩みや苦勞を共有しているのである。

かといって在日同胞と延辺同胞が同一者であるということはむろん、ありえない。それはお互いがそれぞれの政治体制のもとに生まれ、育まれた人間であるからである。

私たちの民族的歴史は、政治というもの(それは内的であれ外的であれ)によってこれまで幾度となく翻弄されてきたし、また現在は南北分断という憂き目にみまわれるといった、そのような悲劇性濃厚な歴史であるが、在日と延辺の同胞がはらからの半島から引き離されたという歴史もまた、それは日帝という政治体制の侵略によって引き起こされた私たちの民族史的悲劇のひとつである。

日帝の政治体制が朝鮮民族史の舞台から去ったその後、半島にははらからの地を南北に分断するそれぞれの政治体制、列島には戦後日本の政治体制、延辺には中国という政治体制の中、それぞれの同胞が私たち朝鮮民族史の一端をおのおの個別的に紡ぎながら、また一方でそれぞれの同胞が複雑に絡み合いながら自民族史の本流に大きく関与してきた。そして今なお、政治に翻弄される苦難の自民族史の中を私たちは生きているのである。

人類の歴史は政治によって実に翻弄されつづけてきたのだが、それでいて、この地球上の無数の個人を束ねる力として、政治というものが大きな役割を果たしてきたことも事実である。

私たちの民族はかつて日帝の政治体制のもとで霧散の危機に瀕したが、その危機を打開しようとして多くの志士たちが文武を問わぬおのおのの独立運動を展開した。そのような独立闘争の中で、日帝の政治力に自民族の政治力で抵抗した志士たちが多数出たが、白凡・金九もむろん、その一人だった。

おとし(97年)の秋、私は上海を訪れた。中国を旅するごとにもう何度も訪れたことのある上海だが、このときの上海はそれまでの中国上海とは違った「朝鮮人独立運動の地」としての上海だった。

独立運動の志士たちの足跡を辿り、あちらこちらと歩き巡りながら半世紀前に高き志操をその胸に抱いて過ごした彼らの、上海での日常生活を想像するという厳肅な愉しみを味わった私だが、『白凡逸志』(梶村秀樹訳、平凡社・東洋文庫)を携えて韓国臨時政府庁舎跡によく辿り着いたときの喜びもまた格別なものだった。日本で出版されているどの中国旅行書にも掲載されていない、金九が『白凡逸志』のその上編を執筆した場所とされる馬浪路普慶里にあった臨時政府

庁舎を見つけ出そうと上海の地図をくまなく探しても「馬浪路」という名の路はどこにも見当たらない。途方に暮れる想いで上海の韓国領事館に問い合わせると、なんてことはない、「馬浪路」は「馬当路」とその名を変えており、庁舎跡は観光施設として一般公開されているとのことだった。

15元の入場料を支払うと、服務員が私を復元された庁舎の中へと案内した。庁舎の構造は3階建ての連立住宅の1戸2部屋の縦一列、つまり3戸6部屋分がそうであり、服務員の後についてその庁舎内を一部屋づつ見て回るのだが、その部屋のひとつひとつが実に小さい。庁舎内の階段にいたっては、梯子を上り下りするような感覚におそわれるほどに狭く不便な階段である。このように立派だとはとても言い難いその庁舎の中を歩き回るうちに、ふと私の胸に熱い感動が込み上げてきたのだった。この狭苦しい庁舎の中に独立運動の志士たちがひしめき合い、自民族の独立や尊厳について大いに語り合っていた。金九はこの小さな部屋で何を想いながら『白凡逸志』の筆を走らせたのか。自民族の未来についての絶望と希望が渦巻くように入り混じった空気が、半世紀前のこの庁舎内の空間にぎっしりと充満していたのだ。私は庁舎内の狭い廊下での歩みを止めて、半世紀前の彼らが吸っていた空気とまさに同じ空気を力一杯吸い込んでみた。が、むろん、私の肺に吸い込まれたのは、庁舎復元のために塗られた真新しいペンキの匂いと、世紀末の上海、ただその空気に過ぎなかった。

この狭苦しい庁舎でひしめき合った志士たちが、李奉昌、尹奉吉の両義士に象徴される独立運動を展開し、また光復後は朝鮮半島の南半分の同胞を束ねる韓国という政治体制の成立に大きく携わっていった(中には北半分の共和国側に身を投じた者もいる)。私たち民族の新たな歴史の萌芽がまさしくこの小さな部屋で育まれたのだった。

このように、新たな歴史が小部屋から始まるという事例は、この韓国臨時政府庁舎に限ったことではない。1921年夏、同じく上海で代議員12名によって挙行された中国共産党創立大会もまた、小部屋どころか、官憲の目を逃れて最後は嘉興南湖の小舟の上で執り行ったという史実はあまりに有名な話ではないか。

そして『天池人文』である。この『天池人文』もしくは『天池倶楽部』の小部屋に集う延辺同胞たちが延辺の未来を語り合っている光景をただ想像するだけで私の胸は熱い感動で満たされる。もしも将来、この『天池人文』『天池倶楽部』の小部屋から延辺の新しい歴史が産み出されるとしたなら、それはどれほど素晴らしいことだろうか、私の期待はどこまでもやむことを知らない。

アラン峠を越えて

金光林

(法政大学講師・博士)

「アラン、アラン、アラリヨ、アラン峠を越えて行く…」。朝鮮民族の永遠な歌ーアラン、この歌には人間が人生の旅路で越えなければならない幾多の峠が象徴されている。アラン峠はどこにあるとも限らず、いつともなく旅人の前に現れる。それは苦難の峠でもあり、希望の峠でもある。一人の人間の力で運命をどうすることもできない場合がある。苦難の峠が果てしなく続き、その途中で倒れてしまうこともしばしばある。それでも生命力旺盛な若い人間であるから、どんな峠であっても越えて見るべきではないだろうか。運命を嘆かず、諦めず、^{かの}可能な限り前へ前へと進めば、その峠の先には朝日輝く希望の^{あけ}境地が自ずと拓かれることもあるはずである。

大学院試験に落選し、留学早まる

私は1982年から86年までの4年間、中国の東北師範大学日本語学科で学んだ。日本語学科で学ぶ朝鮮族の学生がふつう専門科目の成績が優秀であるように、私も日本語に関しては自信を持っていた。大学での4年間、専門科目の成績に優以下はなく、日本国際教育協会が主催した日本語作文コンクールでも入賞し、84年には日本国際教育協会が実行する日本語実力1級試験に中国東北地域で最高の点数で合格された。大学を卒業する年の86年の夏、私は相当の自信を持って吉林大学日本語学科の修士課程試験に挑んだ。しかし、専門科目不合格という理由で私は落選されてしまった。専門科目不合格という屈辱的な結果に私はどうしても承服しがたく、東北師範大学日本語学科の日本人教師までも意外な結果だと思い、吉林大学に問い合わせたほどであった。それでも私にはその結果にどうすることもできず、大学を卒業して延辺大学の日本語教師となった。

延辺大学に行った後も大学院に入ってさらに勉強する夢を諦めなかったが、今度は教師が勤務3年以内は大学院に受験できないという延辺大学の規定に阻まれてしまった。中国国内では短期間に私の夢を実現する道はつい見つからなかった。そこで、私は日本留学の

道を積極的に模索した。日本の友人たちに頼って留学先を探しているところへ、思いも掛けず中国の国家教育委員会の派遣を受けて、日本の文部省日本語日本文化研修生として筑波大学に1年間留学する幸運に恵まれた。それでも延辺大学の一無名の教師から文部省日本語日本文化研修生に選ばれるまでの間には、喜悲こもごもの人間ドラマがあった。

88年初夏のある日、大学の午前中の講義を終えて研究室に戻ったら、学部の主任からいきなり日本留学試験を受けるよう告げられた。中国国家教育委員会が選抜する文部省日本語日本文化研修生に延辺大学も候補1名を出すようになったので、大学内において試験を通して1名の候補を決めることになり、私に試験資格を与えられたという。主任の話によると、候補者試験には延辺大学日本語学科と私が所属する共同外国語部日本語研究室から優秀な教師が参加することになるが、私が参加すると日本語研究室が日本語学科に勝つ可能性がある（普通、共同外国語部日本語研究室の教師は日本語学科の教師より実力が下だと見られていた）ということであった。思うも掛けなかった嬉しい知らせ、「喜出望外」とはまさにこのことを指すであろう。

ところが、午後になって事情が一変した。延辺大学では試験を通して候補を決めるのではなく、資格審査で候補1名を決めることになり、私は資格審査では通りそうでないので、候補に出ることを辞退するようにと主任に説得された。私にはどうしようもないことだったので、おとなしく指示に従ったら、数日後また事情がぐりと変わった。資格審査を経て選ばれた候補が長春で吉林省教育委員会の書類審査に不合格になったのである。それは国家教育委員会の文部省日本語日本文化研修生選抜条件に年齢が満28歳以下というものがあ、延辺大学内の資格審査参加者、資格審査で選ばれた候補者もいずれ28歳を越えていたためである。吉林省教育委員会の要求により、延辺大学では満28歳以下の候補者1名を出すようになり、それも国家教育委員会の締切りが迫ってきたので、急遽私が候補者として長春に送られた。延辺大学の候補に選ばれたその当日私は大急ぎに夜行列車に乗って長春に駆けつけ、翌日吉林省教育委員会の書類審査に通過すると、その足で当日の夜行列車に乗って北京へ行って、中国国家教育委員会に応募書類を提出した。夜行列車が出発する直前に切符を買ったので、座席はなく、長春から北京までの夜行列車の中で半分までは立ったままだったので足がひどく痺れたことが今にも記憶に新しい。

結果として、私は国家教育委員会の書類審査に通過し、日本の文部省が出題した試験にも満点の100点を取って、吉林大学の大学院試験に専門科目が不合格であった「恨」を痛快に晴らしながら、日本留学を実現させた。

帰国日程迫り、東大に挑む

88年10月に私は念願の日本留学を果たしたわけであるが、その留学には条件が付いていた。それは1年の留学期間後は必ず帰国しなければならないということ、留学期間中は大学院試験は受けられないということであった。そのために、私たち文部省日本語日本文化研修生は一律に延長が難しい有効期間2年のパスポートを発給され、それは一度帰国すると無効になるものであった。

筑波大学に来て間もなく、私は日本で大学院に入って勉強を続けたいという強烈な衝動に駆り立てられた。日本の自由で優越な研究環境に憧れ、筑波大学に数百名以上もいた外国人大学院生たちが無性に羨ましかった。吉林大学で一度大学院試験に挫折したからこそそのような思いはなおさらであった。しかし私の留学は条件付きのものであったため、最初はその条件を破る勇気が出なかった。先輩の中国留学生たちも私のような中国国家教育委員会の派遣を受けた者は中国側の要請で日本の各大学が大学院受験をさせないということばかり話していた。

それでも大学院に進学したいという強烈な衝動は断ち切れず、私は筑波大学の入試センターに行って私のような公費留学生も受験できるかと担当者にこっそりと問い合わせしてみた。その担当者は私の質問の意図がよく分からなかったのか、幾らか訝りながら調べて見て、公費留学生にも受験を制限する規定はないと答えてくれた。その瞬間、私は歓声でも上げそうな気分になった。つい、試験が受けられるのであった。

89年1月、私は筑波大学大学院地域研究科の修士課程を受験し、合格された。2月には同じ筑波大学大学院文芸・言語研究科の5年一貫制の博士課程にも受験したが、日本の古典文学を研究するには積み重ねが足りないという理由で不合格になった。

一旦修士課程に合格されたが、いざ入学手続きをとる頃になると、私は迷わざるを得なかった。私は派遣先の許可も得ないまま「先斬後奏」式に受験をしたわけであるが、その後延辺大学といくら交渉しても大学院に進学することを認めて貰えなかったし、実際有効期間2年のパスポートでは大学院の勉強を全うすることもできなかった。これ以上は仕方ないと思い、私は大学院の入学を辞退し、期限内に帰国してから数年後に自費で再び日本留学をしようと計画した。

ところが、89年6月に思いも掛けず本国で一大政治事件が発生した。すなわち天安門事件である。私も若人の熱血的な正義心を燃やしながら、天安門の学生たちを声援する留

学生たちのデモにも参加し、学生運動が失敗した後は率直に言って帰国するのが怖かった。そうだから言って無理に日本に居残るわけにも行かなかった。89年10月3日の帰国日程までに、どこかの大学院に受かり、正当な理由を以て留学延長をもう一回申し出てみようとした。しかし、帰国日程以前の7・8・9月頃に大学院試験が行われる大学はあまりなかった。調べてみたら、私の条件に合うものは東京大学と広島大学だけであった。そこで日本一の大学であろうとも、とにかくチャレンジして見ようと思い、東大を受験することになった。帰国日程が迫る9月に東京大学大学院総合文化研究科の修士課程の1次試験に合格され、翌年2月の2次試験を待つことになった。

こうなって、ようやく日本で正当に留学期間を延長する口実を得たわけである。私の延長理由が正当であり、筑波大学の指導教官が助けてくださったこともあって、私は筑波大学で私費研究生として半年間滞在する資格を得た。89年2月に私は東大の2次試験に合格され、同じ時期に確実な結果を得るために筑波大学の修士課程、5年一貫制博士課程も受験したが、いずれも合格された。そこで結局東大を選んだわけであるが、私の東大への受験は最初から計画されていたものではなく、まさに帰国日程が迫り、そこから逃れるために必死的に行った行動の賜物であった。私が正当な手段で大学院に合格されたため、延辺大学も結局は日本での留学期間の延長を認めてくれ、中国大使館でもパスポートを延長してくれた。

指導教官不在で博士学位取得

東大では2年間の修士課程（総合文化研究科比較文学比較文化専攻）を順調に終え、そのまま同じ専攻の博士課程に進学した。博士課程に入ったからには当然ながら博士論文を書き、博士学位を取得することが一番重要である。私は博士課程の3年目になる95年から論文の執筆に取り組み、96年の秋には論文の草稿をほぼ書き終えた。そこで11月に博士論文の中間審査を受けた。この中間審査は博士論文が8割以上完成した学生を対象に行うものであった。

ところが、この中間審査で私はたいへんなショックを受けた。中間審査の前にもすでにその予感があったが、私の論文に対して一部の教授が相当不満を持っていたのである。それは私の論文に質的に不足点があることは自分でも承知していたが、それよりも研究内容がどうも問題にされたようである。

私の博士論文テーマは『日本における古代支配層起源論と朝鮮』であり、内容は古代の天皇家に代表される支配層と朝鮮半島との関わりが日本ではどういうふうに認識され、議論されてきたのかという問題を思想史的立場から研究するものであった。この研究は何も天皇制を正面から批判するものではなかったが、黒田勝美・白鳥倉吉・津田左右吉・柳田国男ら近代日本の代表的歴史学者・民俗学者たちが古代天皇家の外來說（古代天皇家が日本土着の支配者かあるいは外来者かは今も定説がない）を如何にイデオロギー的に否定し、学問的タブーにしていたかということが研究を通して明らかになった。特に私の論文では、日本の古代史学の金字塔を築いたと言われる津田左右吉が古代天皇家の起源問題においては如何に大きな歪み意識を持っていたかという問題を、戦前の津田左右吉裁判記録の通して初めて学界に提起した。以上の理由によるらしく、私の博士論文は中間審査ではほぼ否定され、そのままでは論文が通過するはずがなかった。特に私が不安だったのは、論文に取り組む際一応支持していた指導教官（修士課程から指導していた教授は途中で退官し、別の教授が博士3年目から指導教官になった）が中間審査で「あなたの論文はこれからスタートだ」と結論を下し、それからは私に対する指導を回避しようとしたことである。事実、指導教官はその頃自身の研究のため、東大を離れて外地へ行って半年間滞在していたので、連絡もままにならなかった。

ほぼ完成した論文が否定されてどうすればよいのか、私は途方もない危機に陥ってしまった。ちょうどその頃、中国では私の母親が亡くなり、私の失望、むなしさは度を増すばかりであった。そこで中間審査で私の論文に対して一番批判的であった日本神話学の教授を尋ねて誠実に相談したら、教授はすでに完成した論文の内容を半分近くを削除するようヒントをくれた。それで論文が通るなら従うことにして、一番デリケートなところは削除し、論文のテーマも『日鮮同祖論—その実体と歴史的展開』と改めた。それで日本神話学の教授の同意は一応得たのであるが、今度は指導教官の支持も得なければならなかった。指導教官に会うために、私は大阪まで行き、そこからさらに半日の時間をかけて山奥の寺で密教を研究している先生を尋ねた。数時間の面会を経て一応支持してくれそうな感触を得て戻った。しかし、先生はすぐ論文全体を指導するのではなく、まず先生に序文を見せ、それが通ったら、1章、2章、3章…と指導するということであった。その後、序文がどうしても先生の満足を得られずそれだけで2ヶ月の時間を掛けた。

ところで、その時私は悠長にいられる状況ではなかった。97年3月に博士課程5年目が終わり、在学期限が切れるため、4月からは日本に滞在できるかどうか非常に不

安になった。入学管理局では、ここ数年間博士課程後終了後定職なしに客員研究員などの身分で日本に居残る留学生たちに対してビザ取得を厳しくしていた。そこで私はなんとかして3月までに論文を東大に提出しようとした。それでも指導教官がそれを同意するような気配はなく、私の論文指導に本腰を入れようとしなかった。事実上完成した論文に対して全部やり直すことを求められ、序文さえ先生に通らなかった。指導教官は私の論文の内容に対する一部の先生の不満を気にし、事実、指導教官自身も私の論文内容に賛成ではなかったもので、どうしても積極的に指導する気持ちになっていなかった。

97年1月になって、私の在学期限切れ後のビザの取得を不安視した専攻の主任教授が（実際、その頃東大の中国留学生の中ではビザ問題に手こずる事態が続出していた）教授会で私の博士論文のことを討議にかけた結果、中間審査で反対していた日本神話学の教授が私の努力と論文の質を高く評価してくれたので、1月末まで論文を提出させ、3月には公開審査を行うことが教授会で決まった。しかし、私の指導教官はその頃半年間東大を離れていたもので、その教授会に参加しておらず、結果を主任教授から電話で知らされたが、指導教官は即座にその決定に反対した。指導教官が指導さえ終わっていない論文に対して教授会で提出を決め、公開審査日程まで決めたことには賛成できないということだった。教授会でなぜ事前に指導教官に相談せずに私の博士論文の提出を決めたかは今も私には分からないことである。そこで私は今度こそ諦めて運命を指導教官に任せようとした。ところが、今度は教授会で相当な力を持っている日本神話学の教授がいくら指導教官が反対であっても教授会で決めたことだから早く提出することを求めたので、そのことを電話で外地にいる指導教官に相談したら、やっと提出してもよいという許可が出た。

それで1月末についに論文を東大に提出したのであるが、そうだからと言ってその後の公開審査がスムーズに進んだわけではなかった。指導教官が内心では同意しないまま論文を提出したので、公開審査でも指導教官の支持は得られず、不安と焦りの半年を経てやっと9月に博士学位の授与が決定された。博士学位が授与された日は97年9月19日、日本の年号では平成9年9月19日、「9」という数字ばかり並ぶ日であり、どうも私が苦勞に苦勞を、さらに苦勞を重ねて取得した博士学位のたいへんさがその数字が象徴しているようであった。

入管の逼迫で大学教師に

博士論文でさんざん苦労したので、論文の公開審査も一段終わり、家で寛いでいたゴールデン・ウィークの最中の5月3日、私宛に横浜出入国管理局から一通の簡易書留が舞い込んだ。最初、そこには2月に入管に申請した私と家族のビザの許可書が入っているかと思った。しかし、全く意外にもそれは私と妻、息子三人のビザ不許可通知書であった。私は4月から1年間東京大学東洋文化研究所の外国人研究員になり、妻は4月から中央大学経済学研究生になっていたのも、まさかビザが不許可になるとは思いも寄らなかった。一瞬、私は入管の通知書の内容が間違っていないかと疑ったほどだった。やっと博士論文が一つの峠を越えようとしたところへ、今度は入管という虎が峠の林の中で私を待ち伏せていた。『水滸伝』の武松になって拳で虎を退治するか、気を失って虎に食われるか、とにかく私にはまたも大きな試練が待っていた。

連休明けにさっそく横浜入管に赴いて、ビザの不許可の理由を問い合わせたら、十分な説明はなく、留学が終わったから早く本国に戻るべきであり、私の妻は家族同居の目的で来日したから大学に入って勉強することは認められないということであった。それで私たちには短期間の帰国準備用ビザを取得してその間に荷物を作って日本を離れる道しか残されていないということであった。

本国に帰れと言われてそのまま帰ってしまえば事は簡単に済むはずだが、博士論文の審査が完全に終わっていなかったし、修士論文・博士論文を日本で単行本に出す計画もあったので、私にはもう少し日本に滞在する必要がある。

東京大学留学生センターの相談員の尽力により、私たちは一旦帰国準備用の短期ビザをもらった後、その間にビザを再申請することになった。その相談員が入管に問い合わせたところによると、博士論文執筆期間中に妻が私に代わりに東京都新宿区教育センターで中国語を教えたことが私家族のビザの不許可理由だったという。妻は家族滞在の身分でありながら、95年には資格外活動許可書をもってアルバイトをしたのに、96年にはそれをもらわずにアルバイトをしたからだという。厳密に言えば私のミスであるが、それだからと言って犯罪行為でもないことに対して家族三人のビザを不許可にするのか、あまりやりすぎではないか、そう思いながらも抗議することはできず、入管の要求に従ってビザの再申請を行った。

再申請には実に面倒な書類が必要であった。97年度の私の家族の生活能力証明書を作り直し、東京大学東洋文化研究所の受入れ教官の推薦書をもらい、3月まで在籍していた東大比較文学研究室の主任教授の推薦書をもらい、どこから経済援助をもらっている証明

書も揃えるようにと言われた。自分の貯金証明書を見せたが、それは無用であった。そこで前から付き合いのある日本人の老人に頼んで経済援助保証書を書いてもらい、やっと6月中旬になって半年のビザが下りた。しかし、家族三人とも半年のビザには「今回限り」という、赤いスタンプが押されてあった。その際、入管の審査官から今回あなたに特別に配慮して半年のビザを与えるが、その後は絶対延長できないし、博士学位を取得したらさっさと本国に帰るなさいと告げられた。それを聞いた瞬間、私は怒りが爆発した。これまでなんとか事を無事に済ませようと、不満があっても何事にも我慢してきた。5月にビザの不許可になってから、私は居住地からかなり距離のある横浜入管に5回も足を運んだ。さまざまな難しい要求もクリアしようと一生懸命に努力した。それでもこれほど不公平な結果しか得られないのか、長い間日本で留学したのに、無情にも追われる形でこの国を離れねばならないのか。黙り兼ねて私はその審査官に強く抗議したわけであるが、入管の審査官に無礼だという理由で私は入管のブラックリストに載り、半年後の日本滞在はほぼ絶望となった。

入管に睨まれた以上、私を助けられるのは唯一政治力しかないということであった。私の立場を理解してくれたある大学教授の紹介で、自民党の有力な国会議員が私を助けるようになった。これにはさすがの入管も拒否できず、私がどこかに就職して安定した収入さえあれば、ビザは延長可能だと言われた。東大東洋文化研究所の外国人研究員では、ビザが一度不許可になり、次は「今回限り」という条件まで付いているから、正式に就職することがビザ取得の唯一の方法であった。さすが就職まで国会議員に頼むわけには行かないのだが、97年の年末になって1、2ヶ月の間に就職先を決めることは至難の技だった。それでも希望が見えたので、心当たりのところはあちこち探し回った。努力と幸運が重なって、98年3月まで5ヶ所の大学で非常勤講師として採用され、教授ビザを取得し、妻も留学ビザを取得して、中央大学の大学院で勉強できるようになった。入管の審査官は私にあなたのようにビザが一度不許可になり、その後は「今回限り」という条件がついてから、ビザが延長できたケースは稀にしかなく、ほとんどの場合帰国しなければならないと知らせてくれた。それでも97年5月に発生した私家族のビザ不許可事件は実に一年近くかけてやっと正常化された。博士論文でさんざん疲れ果てた後、今度はビザのために、焦り、悩み、怒りの一年を送ったわけである。

私を峠の林の中で待ち伏せた入管という虎、私が拳でその虎を退治できたわけでもなく、虎が私を食ってしまったわけでもなく、とうとう虎は道を譲り、私は峠を越えた。

豊かな民族自治州を築く

—中国朝鮮族の二十一世紀への展望—

座談会

鄭判龍

(延辺大学朝文系教授)

司会・セヌリ(朴鉄民)

於中国延吉大宇ホテル
九八年八月二日

金虎雄

(延辺大学朝文学部教授)

李仁洙

(宝徳産業(株)代表取締役)

写真・許南英

中国朝鮮族の歩んできた
歴史は「涙の歴史」

今、こうして中国在住の同胞たちと交流する機会ができたことを非常に嬉しく思います。

セヌリ 日本には今、中国延辺朝鮮族自治州から留学や研究のために来ている朝鮮族が約二千人を超えているといます。昨年、大阪で開かれた国際KOREA学会などが接点となつて、われわれ在日と在朝鮮族がこうして交流するきっかけが生まれました。また、国際KOREA学会というものが、KOREA学の発展を目指す目的で設立されて以来、すでに朝鮮半島以外の国々に在住する朝鮮族との交流をはかってきたわけですが、こうした在外KOREAN同士の交流は、時流に沿ったものであるとも感じます。われわれ在日も、本国と在日のことだけに目を向け

きた時代が長く続いたわけですが、

朝鮮人社会を形成するに至っています。その移住の経緯をだいたい次のような三つの段階に分けて見ることが出来ます。第一段階は、一八六〇年頃の移住です。この頃、朝鮮北部に大飢饉があり、北部に住む一部の朝鮮人が図們江(トウマン江)を渡つて中国に移住してきました。歴史的には、この時期の移住が最初の移住と見なすことが定説となつています。この時期の移住者たちの出身地は、ほとんどが咸鏡道、平安道です。

また、鄭先生は、どのようにして中国に來たのですか。また、それは朝鮮族移住の歴史に照らした時、どのような時代背景と重なることができるでしょうか。

鄭 ご存知の通り、十九世紀中葉から数多くの朝鮮人が中国に移住し、今の

第一段階は、一九一〇年の日韓併合と、それに続く一九一九年の三・一運動による弾圧等を逃れて図們江を移住してきた時期です。このなかには、独立志士が多く含まれていました。第二段階は、一九三二年の満州事変、三二年の「満州国」建国の時期です。

アルバイトという名の苦学

中国から來た大部分の留学生たちにとっては、アルバイトは日本で生存するための必要不可欠な手段であり、アルバイトを前提にする留学はまさに苦学でもある。

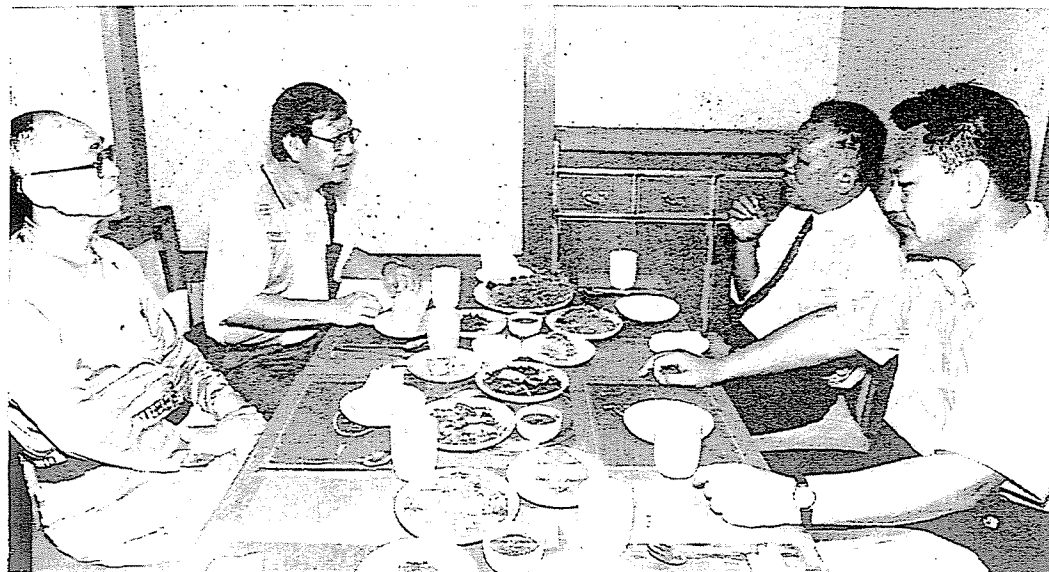
私は來日して10年ぐらい勉強している間に、幾つかの奨学金をもらったことがあるが、それだけでは生活できず必ずアルバイトをしなければならなかった。最初の1年間は文部省の奨学金(月額13万5千円)をもらったため、それなりにスムーズな生活が送れたのだが、その後は完全に私費留学生になり、月額7万円程度の奨学金(3年半は何ももらわなかった)だけでは家族3人の生活ができず、それ以外にも月10万円以上の収入が必要であった。そのために、アルバイトをしない時はほとんどなく、もし1ヶ月以上もアルバイトをしなければ生活にすぐ危機が生じてくるのである。

來日して10年間、私がやってきたアルバイトは職種だけで20ぐらいになる。サッシ製造工場・ダンボール製造工場・製鋼所などでの重労働、引っ越しの手伝い・ゴルフ場の芝生植え付け・道路での交通量調査・公園の芝生刈り、研究所の実験助手などの臨時性仕事、日本料理店・居酒屋・百貨店・コンビニ・パチンコ店などのサービス性仕事、新聞配達・清掃という早朝の仕事、語学教師・翻訳・通訳など語学力を生かす仕事などである。

日本留学でいつも難しさを感じるのは、勉強とアルバイトを両立させる問題である。勉強ばかりに没頭すると生活ができなくなり、アルバイトにあまり精を出すと勉強ができなくなる。私費留学生にとって両方をうまく調整しないと日本留学は結局失敗に終わってしまう。そのために留学生活はいつも落ちつきがなく、不安定な日々を送るわけである。

それでもアルバイトを通して日本社会のいろんな実情が分かってきたし、自分自身を鍛えることができた。最初のアルバイトで給料をもらった時の充実感、早朝の新聞配達していて、犬に気付かれて吠えられないためにこっそりと新聞受けに新聞を入れる緊張感、国際シンポジウムで日本語・韓国語・中国語の同時通訳を一人でこなせた時の成就感など、たいへんではあが大学の勉強だけでは味わえないさまざまな体験があったわけである。

小さい頃、戦前日本で新聞配達しながら勉強した苦学生の話をよく聞いていたが、80・90年代に中国から來日した大部分の留学生たちも時代は変わっても同じような苦学生ではないだろうか。しかし、「若い頃の苦労は黄金でも買えない」という諺があるように、苦労の多いアルバイトは我々の留学の成功を支え、人生の経験を豊かにしてくれるし、本国に戻って活躍するための物質的基礎を作ってくれる。



の時期、日本は多くの日本人を満州国に開拓民として移住させましたが、このなかには朝鮮半島から移住させられてきた人々もいたわけです。

私の故郷は、今の韓国の全羅南道潭陽郡というところです。私が五歳の頃、祖国での生活が困難になって、父母に連れられて中国に移住してきました。最初は遼寧省宣口に一年ほど住み、それから北満（今の黒龍江省尚志市）に行きました。

当時、満州には「安全農場」というものがありました。それは日本が中国北部を占領後の「食料基地」として建設したもので、開拓民がここの農作業にあたりました。先にも言いましたように、開拓民のなかにはもちろん日本人もいたわけですが、もともと多かったのは、朝鮮半島の慶尚道、全羅道、江原道から強制移住させられてきた朝鮮人たちでした。私たち家族は、その開拓民に加えられたわけです。それが一九三八年のことです。

セヌリ、そうしますと、鄭先生は、黒龍江省で終戦を迎えたわけですね。

鄭 はい、そうです。私は一九三八年に中国に来て以来、さまざまな戦争と政治的激変を経験したわけですが、それはちょうど東北アジアの近現代史と通じるものです。例えば、私は「満州国」を見たことがあるばかりでなく、

なる。そのためには民族大学の建設は受け入れるべきではないかというのが党の考えでした。それで中国の朝鮮族は自分たちの力で大学を建設したので、ですから延辺大学は、民族人材の養成のために建設された、純粋な民族大学です。

しかし、設立当初、国家の支援もなく運営は非常に困難でした。教授らの給料は、中国の朝鮮人たちが自分たちの決して豊かではない生活のなかから供出してくれた米で支払われていたのです。

教員たちは、東北各地から募集しました。そして大卒者四、五十名が集まってきました。教師のほとんどは朝鮮族でした。また、当初は二十名ほどの日本人も教壇に立っていましたが、日本人の大部分は一九五六年に帰国しました。

一九四九年十月、中華人民共和国が成立し、中国は本格的な社会主義建設の時期に入りました。一九五〇年、中国中央政府は、全国の教育機構の整備の一環として、延辺大学の調査にきました。その結果、中央政府教育部直属国立大学として認められ、一定の資金援助も得られるようになり、教員らの給与も支払うことができるようになったわけです。

設立当初、教員も学生もそのほと

んどが朝鮮族だったことから、延辺大学は民族大学でしたが、その状況も一九六六年に始まった文化大革命で一変しました。延辺大学が「民族主義的」「売国的」とされ、朝鮮族の教員らは農村に下放される一方、多くの中国人学生を招請し、大学の民族的性格を大きく変化させていったのです。こうした状況は十年間続きました。一九七六年「四人組」が粉砕された後、中央政府は「文化大革命」時代の誤りを認めた上で、十分な民族自治権を再び与えました。今は大学の民族的性格も回復され、学生の割合も朝鮮族七〇%、漢族とその他の民族二〇%程度と明確に規定されています。

中国では一九七八年以降を新時期と呼んでいますが、この新時期に入ると、経済の改革・開放政策にあわせて教育改革も大きく推し進められました。中央政府教育委員会は「二一一工程」という壮大な計画を打ち出し、二十一世紀には百余の大学を重点的に発展させることを決め、大学の改革を推進しました。延辺にはそれまで五つの小規模な大学がありましたが、それらの五大学が話し合いを進め、教育内容の充実化と運営の効率化を図るため、延辺総合大学として合併することに合意しました。そして一九九六年、中央教育委員会認可を得て、今の延辺大学の形

経済交流は八〇年代半ばから始まっていました。この間のことについては、私の著書『私が暮らしてきた中華人民共和国』、『故郷を離れて50年』のなかに詳しく書いています。

手弁当で作上げた民族大学

セヌリ 延辺大学は中国朝鮮族の中核的存在といわれていますね。実際、延辺大学は、中国の朝鮮族にとってどのような位置づけを持っており、またどのような役割を果たしてきたのでしょうか。

鄭 延辺大学は来年、創立五十周年を迎えます。創立は一九四九年四月一日です。中華人民共和国の成立は一九四九年十月一日ですから、それよりも半年前に開校されました。大学の設立としては、中国国内でもかなり早い時期に行われたと言えます。解放直後、中国東北部には数多くの朝鮮人が居住していました。延辺では朝鮮人が七五%を占めていました。解放当時の延辺地域の教育水準は、かなり高かったと言えるでしょう。例えば龍井市内には中学校が六カ所ありました。市内に六カ所という数字は、当時の朝鮮に比べても多い数字だと思います。そしてそれらの中学校を卒業した学生たちは、大学進学を志したところが、行く先がありませんでした。中国国内は内戦状態

【鄭判龍略歴】

1932年に朝鮮・全羅南道潭陽にて出生。1937年に家族と共に中国へ渡り、黒龍江省尚志県農村に定着。1949年、延辺大学に入学。1952年に延辺大学朝鮮言語文学部を卒業後、学校に残り教鞭をとった後、1955年にソ連に留学。1960年にモスクワ大学で副博士学位を授与され帰国。1960年より引き続き延辺大学にて教鞭をとっていた。その間、語文学部党総支部書記、学部副主任、学部主任を歴任。1980年に延辺大学副校長に任命される。1978年に副教授に昇進。1979年に教授に昇進。1986年に博士指導教員に任命される。1992年には国務院にて発給する政府特殊手当金享受者になる。

現在、中国作家协会会員、中国外国文学学会常务理事、中国朝鮮文学研究会理事長、中国比較文学学会理事、吉林省文壇副主席、延辺文壇副主席、延辺大学朝鮮学研究中心主任、延辺大学学術委員会主席等、社会間職務を担っている。

主要著書としては『外国文学史』『世界文学史』『第2次世界大戦後の世界文学』『外国文学講座』『鄭判龍文集』『外国見聞』『ゴリキー伝』『私が暮らしてきた中華人民共和国』『故郷を離れて50年』『中国学と朝鮮学』等があり、発表された散文、評論、論文は約200余篇になる。



鄭判龍



鄭判龍『鄭判龍文集』『故郷を離れて50年』

にありましたし、朝鮮本国へ学生を送るにしても、多くの学生を受け入れる態勢が整っていただけではなかったのです。そこで朝鮮側が、延辺独自で学校を建てるように促したという経緯があります。これが一つの要因です。

また、延辺大学の創立が早かった理由に、解放後、延辺地区にすぐに共産党が入ってきたということがあります。朝鮮人は、抗日闘争時から国民党ではなく、共産党を歓迎するムードがありました。朝鮮人は共産党と一致団結して日本帝国主義者と戦いながら、この延辺の土地を守ったのです。解放後、間もなく延辺に入った共産党は、延辺の朝鮮族が独自に大学を建てようとしているのを知って、その意向を認めました。その理由は、やがて中国全土が解放されれば、各民族に自治の権利を与えるというのが党の政策としてありました。そうなった場合、国家建設のために多くの有能な民族人材が必要に

なる。そのためには民族大学の建設は受け入れるべきではないかというのが党の考えでした。それで中国の朝鮮族は自分たちの力で大学を建設したので、ですから延辺大学は、民族人材の養成のために建設された、純粋な民族大学です。

しかし、設立当初、国家の支援もなく運営は非常に困難でした。教授らの給料は、中国の朝鮮人たちが自分たちの決して豊かではない生活のなかから供出してくれた米で支払われていたのです。

教員たちは、東北各地から募集しました。そして大卒者四、五十名が集まってきました。教師のほとんどは朝鮮族でした。また、当初は二十名ほどの日本人も教壇に立っていましたが、日本人の大部分は一九五六年に帰国しました。

一九四九年十月、中華人民共和国が成立し、中国は本格的な社会主義建設の時期に入りました。一九五〇年、中国中央政府は、全国の教育機構の整備の一環として、延辺大学の調査にきました。その結果、中央政府教育部直属国立大学として認められ、一定の資金援助も得られるようになり、教員らの給与も支払うことができるようになったわけです。

設立当初、教員も学生もそのほと

んどが朝鮮族だったことから、延辺大学は民族大学でしたが、その状況も一九六六年に始まった文化大革命で一変しました。延辺大学が「民族主義的」「売国的」とされ、朝鮮族の教員らは農村に下放される一方、多くの中国人学生を招請し、大学の民族的性格を大きく変化させていったのです。こうした状況は十年間続きました。一九七六年「四人組」が粉砕された後、中央政府は「文化大革命」時代の誤りを認めた上で、十分な民族自治権を再び与えました。今は大学の民族的性格も回復され、学生の割合も朝鮮族七〇%、漢族とその他の民族二〇%程度と明確に規定されています。

中国では一九七八年以降を新時期と呼んでいますが、この新時期に入ると、経済の改革・開放政策にあわせて教育改革も大きく推し進められました。中央政府教育委員会は「二一一工程」という壮大な計画を打ち出し、二十一世紀には百余の大学を重点的に発展させることを決め、大学の改革を推進しました。延辺にはそれまで五つの小規模な大学がありましたが、それらの五大学が話し合いを進め、教育内容の充実化と運営の効率化を図るため、延辺総合大学として合併することに合意しました。そして一九九六年、中央教育委員会認可を得て、今の延辺大学の形



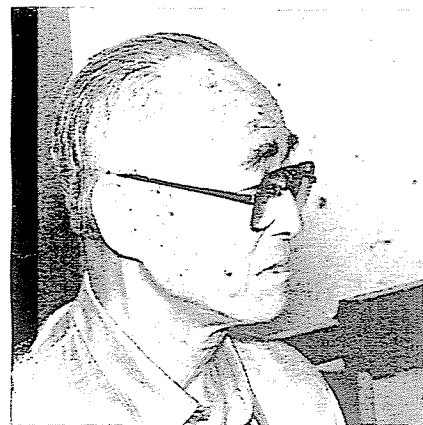
金虎雄

らに、朝鮮族の若者のなかにも新たに僧になった人が十名ほどいるという話も聞いています。彼らは中国の五台山などに修行に行くようです。

朝鮮族のサッカーチームを応援した漢族

セヌリ 延辺では朝鮮族と漢族の関係はどうなんだろう。仲良くやっているんですか。心理的距離のようなものはないんでしょうか。

鄭 延辺は朝鮮族自治州ですから、この地域の主人はわれわれ、朝鮮族なんです。自治権というのは公民権、参政権等を意味しますが、延辺には朝鮮族の他に、漢族をはじめ満族、モンゴル族、回族、その他の少数民族がおります。中国全体が多民族国家ですから、延辺も多民族州であることは当然のことです。これまで目立った民族間の矛盾というものはなかったと言います。朝鮮族を中心に、漢族を含め、諸民族が共存しながら延辺を建設する。これが建て前ですから。しかし、建て前だけではなくて、実際に関係は良いと思いますよ。例えばサッカーですが、中国には全国に十四の甲級サッカーチームがあるんですが、そのひとつが延辺にあります。全国リーグで戦う時には、朝鮮族も漢族も一緒になって応援しますし、判定に不正があった時には、漢



李仁洙

族が中心になって抗議したこともあったんです。それはともかく、延辺の朝鮮族は、二十世紀に二つの大きなことをよくやり遂げたと思います。一つは中国にいながら、中国人との良い関係を築いたこと。私たち朝鮮族は、中国国内での信任を得ているわけです。私たちは中華人民共和国の公民として持つすべての権利を持っています。これは海外在住のどの朝鮮族とも比較できないことだと思います。朝鮮族は中国の党・政治・軍部のどの分野にも参与することができ、実際に中央で活躍している人が数多く存在します。ですから、私たち朝鮮族も中国の主人なのです。

二つ目は、民族性をよく守ったということです。アメリカや日本の場合、二・三世になって朝鮮語を知らない人は多いのですが、私たちは民族の言葉を保持したばかりでなく、小学校から大学まで民族語による教育機関と独自の教育体系を確立しました。これは将来にわたってわれわれの子弟たちの民族性が保持されるという証しです。

民族性の保持は、もちろん容易なことではありません。今、中国の朝鮮族社会にも大きな変化が起きています。社会主義市場経済というものと、改革・開放路線によって朝鮮族社会も、とく

に農村では急速に破壊されています。朝鮮族の人口も相対的に減少しています。若者たちは民族の重要性を大切にしないで、金銭主義に陥っているんです。私たちはすでに数年前からこの事実に基づき始めていますが、それに対する私たちの役目は、TV、ラジオ、新聞、雑誌などマスコミを利用して言論活動を根気よく続けていくことにあります。私たちは二十世紀にこの面で得た経験がプラスに働くと

二十世紀は、中国全体が経済活動を無視して、政治ばかりやったという感じがします。貧困が社会主義ではあります。私たちが豊かな生活をする権利があり、また後世に繁栄した豊かな延辺を譲る義務があります。そのため、民族性を持った底力のある自治州を築いていく。この目標はあと二十年で達成すると、私は信じています。

セヌリ 今日ありがとうございます。延辺の朝鮮族が守り抜いてきたもの、そしてそれを力にしての二十一世紀への展望を聞かせていただき、私たちが大いに刺激を与えられました。

とることになったわけですね。セヌリ 総合大学として生まれ変わった状況のなかで、大学における朝鮮語の教育はどのようになされているんですか。

金 延辺大学の朝鮮語教育は、朝鮮言語文学部が中心に行っています。延辺では小学校から高校まで、一貫した朝鮮語教育体系がありますが、大学の朝鮮言語文学部の教育・研究活動もその延長上にあると考えてくださって結構ですよ。他の学部では中国語で授業が行われていますが、朝鮮族の学生が七割を占めているため、学内での日常生活には、ほとんど朝鮮語が使われています。

儒教の伝統は生きている

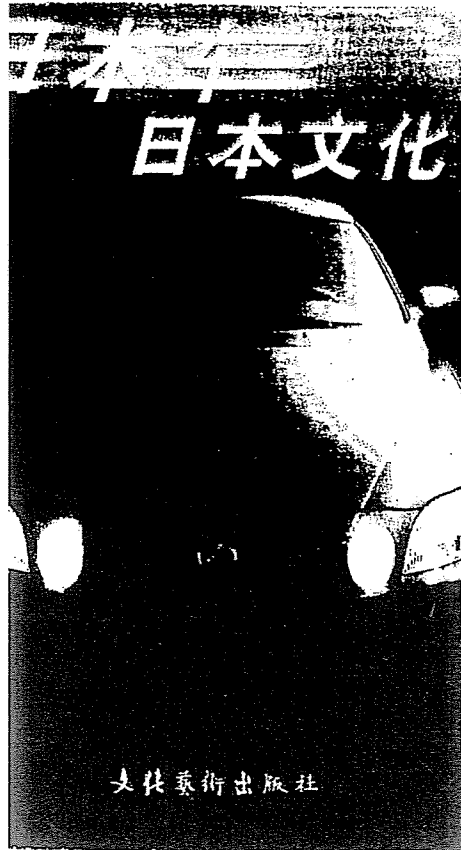
李 ところで、話はまったく変わりますが、私は今回、初めて中国の延吉を

訪れたわけなんですが、中国の人民の生活について、一つ不思議に思っていたことがあるんです。中国が改革・開放政策を進めていくなかで、人々の生活や価値観というものがどのように変わってきているのか。とくに宗教に対する距離というか、考え方についてなんですが、とくに朝鮮族の場合、伝統的に儒教の影響というものが生活のなかに深く入り込んでいっていると思います。民族的生活を維持していく上では、儒教と切り離しては考えられないのではと思うわけですが、その辺のところ、現状はどうなんだろう。

鄭 確かにその通りだと思います。儒教は今でも私たちの生活のなかに存続しています。それは祭祀という形で守られていると思います。しかし残念なことは、今、延辺には巫女がいないことです。

相対的には八〇年代、改革・開放以来、宗教活動は盛んになっています。もともと中国の憲法で「中華人民共和国の人民は宗教信仰の自由がある」と明記しているように、延辺でも宗教信仰の自由は守られています。今、延吉市内にはキリスト教の教会が二十カ所近くあって、二万五千人ほどの信者がいると言われています。これらの教会は韓国の影響が強いようです。その他、天主教の教会も建てられています。

仏教については、文革後、中国国内の寺院がほとんど破壊されたわけですが、最近、徐々に復興の兆しを見せているようです。延辺州内の敦化市で最近、建てられた正覚寺という寺は、東北地方で一番大きな寺となっています。これは、アメリカ在住の僧が人民元三千万をかけて建立したそうです。さ



文化芸術出版社



鲁学海

1952 年生于上海。
1969 年到延辺插队，后考入延辺大学。
1988 年留学日本筑波大学。
1997 年获博士学位。
著有《日本の月亮》一书。

此书在内山书店有出售，价格为1,320日元。天池俱乐部的成员如欲购者请同本杂志编辑部联系。编辑部现有20本此书，每本售价为800日元。

経済発展より教育を！

趙 龍淳

アメリカ・ハーバード大学の有名な経済学者・レオンチエフがアメリカの輸出品を調べたところ、意外な結果に気が付いたという。

彼は当初、アメリカは資金が豊富でハイテク産業が抜群であるため、いわゆる資金集約的なハイテク製品が主流だろうと予想した。しかし、予想に反してアメリカで強い競争力を有し、輸出の中心となっているのは圧倒的に労働集約的な産業だったのである。どうして世界一の技術と資金力を持つアメリカで、労働を多く用いる産業が競争力を持っているのだろうか。それは社会が成熟段階に向かうほどモノから高度なサービスへと需要がシフトしていくことに関係しているからだろう。

かつて先進国では大量生産、大量消費の時期があった。大量生産にはもちろんロボットの効率が人間をはるかに超えている。しかし現在は多品種、少量化の生産方式に転じている。多種多様な製品を低コストで消費者に提供するためには高度かつ速やかな対応力を持つ労働手段が必要になる。そこでは人間の「経験」や「判断」が単一の動きしかできないロボットに勝るのである。だからこそ先進地域になればなるほど労働集約的な産業の重要性が増し、こうした分野の相対的な競争力が高まってくるのである。このことはわれわれに極めて重要な示唆を与えている。二十一世紀に向かってわれわれの社会が真に豊かになるためには、こうした市場で高い付加価値を生み出せるような人間（労働力）を育てていかなければならないということだ。その役割を担うのはまさしく高い教育機能である。

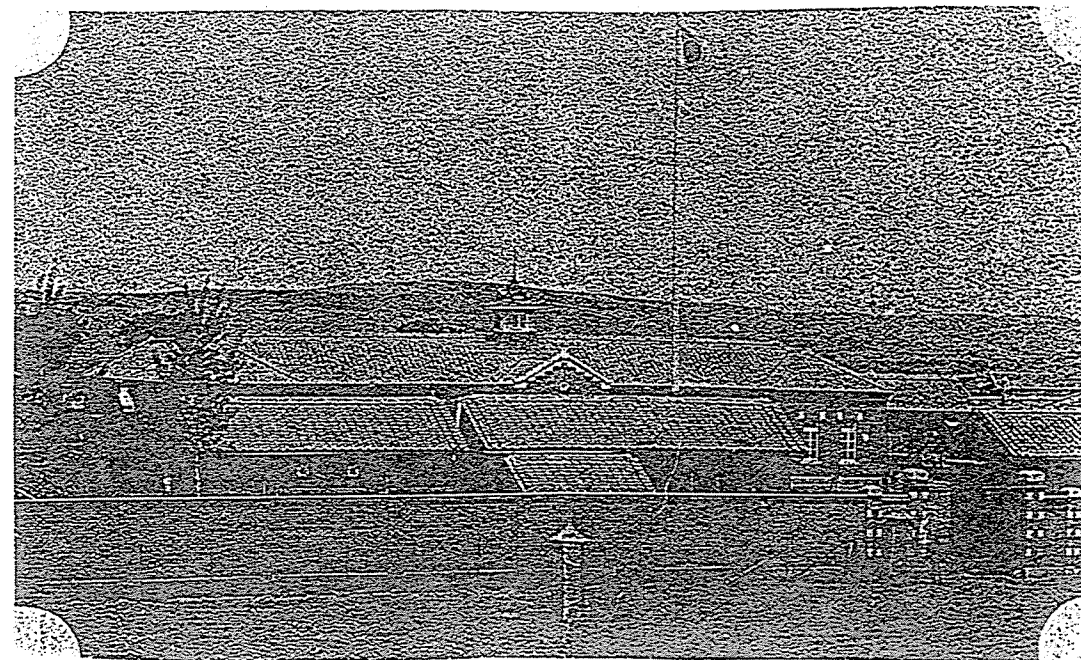
現在中国は経済率の伸びを確保するために必死だ。しかし依然低い教育機能の改善には目途が立たないままである。経済を重視するあまり教育を軽視するのでは、という懸念の声も少なくない。今までの中国経済は外国の資金と技術によって発展してきたといっていよい。しかしこれからは自分の技術によって新しい産業を生み出さなければ真の経済大国にはなれない。これを実現させるパワーをもたらす重要な源泉は教育である。

経済学者ボールディングによると、国際関係論上には三つのパワーがある。①は軍事力のパワー、②は経済力のパワー、③は総合的なパワーである。しかし、二十一世紀に圧倒的なパワーを持つのは総合的なパワー、いわば知識のパワーである。明らかなように、このような知的パワーを生み出せる唯一の存在は人間であり、その背後にある教育である。

今日現在、中国の教育制度から見ると、優秀な人材育成を妨げるいくつかの制度は改善しなければならない。まず全国画一的な教育システムを廃止することだ。全国の学校が中央の指令に従い、同じ教材、同じスピードで進まなければならない。その結果、学生にとってもっとも大切な個性が抑制されてしまう。もう一つは教育の重要性に対する認識の欠如である。中央政府がリードして教育の重要性を強くアピールする必要がある。二十一世紀に向かって、真の大国への変身を目指す中国にとって今こそ全国民が同心同体となって真剣に教育を考える時期ではないかと思う。（青山大学・法学部）

(历史小知识)

珲春事件



1920年9月12日、以东宁县老黑山为巢的刘四海、万顺等匪首，率三、四〇〇人土匪，分别从东、南、北三个大门攻入珲春县城，经近2小时的放火、抢劫银库之后，绑架众人退去。10月2日凌晨，又有匪首镇东、万顺等率四百余名匪徒，从北面的青沟子分东西两路袭击珲春县城。他们用三门大炮控制城门，并用二挺机枪在前扫射冲破了防线。匪徒们在城内烧杀抢劫，火烧了在珲春的日本总领事馆分馆（1910年11月设立），并杀死了1名日本警察、11名日本人和6名朝鲜人，绑架了100多名，抢去官帖5万多张，现款260多万吊。对死伤数字，日本方面的记录与此不同。据10月20日，驻扎在朝鲜的日本军参谋部的报告，在战斗人员中，有1名日本领事馆警察署长、1名朝鲜巡警、1名在乡军人被杀。另外有13名日本人也被害，其中有6名男人，2名妇女，2名儿童。受轻重伤者也有20余名。至早晨8时过后，匪徒们才经县城西北面的关门咀子退去。

当天下午，日本的朝鲜军第19师团以“保护日本人的生命财产”为名，立即将80名在朝鲜庆源守备队的宪兵派往珲春。3日下午，由安部少佐率一个大队的兵力也进驻珲春。仅在几天内，日本以步兵116联队第3大队为中心编成步兵1大队，配备1个中队的骑兵和1个中队的炮兵侵占了珲春。并配置57名警官和众多的密探，在珲春进行侦查活动。7日，日本政府内阁会议针对间岛的目前形势，决定派遣必要数量的兵力到间岛，以达到完全消除不逞鲜人祸根的目的。

9日，日本军部下令给浦潮派遣军司令官和朝鲜军司令官出兵间岛，以朝鲜军第19师团的37和38旅团为主力，由撤自西伯利亚的浦潮派遣军第11、13、14师团和东北关东军配合，决定以2万名兵力，讨伐朝鲜人的反日团体和武装。“珲春事件”成了“庚申年大讨伐”的导火线。

日军讨伐的范围几乎涉及间岛全境。仅从珲春、延吉、和龙、汪清四县的不完全统计，日军在69个村，杀伤近3600多名朝鲜人，烧毁3500栋民房，59所学校，19座教堂和9900多石粮谷，制造了罕见的大惨案。在间岛的抗日团体和武装力量也受到很大的损失。

对“珲春事件”爆发的原因，在史学界有“日方有意制造”一说。即，日本在背后操纵土匪，制造事件，以利借口出兵间岛，镇压反日团体和武装。对此，虽然没有充分的史料依据，但是，事前朝鲜军多次秘密派兵到间岛侦查交通，日本间谍中野清助与土匪之间的秘密交往等迹象来看，也不能完全排除可能性。

事件爆发后，由于中国政府的反对、国际舆论的压力以及间岛朝鲜人的坚决抵抗，1921年5月，日本军队不得不撤出了间岛。

● 珲春：位于吉林省延边朝鲜族自治州境内

● 图片为事件爆发后的间岛总领事馆珲春分馆

（桦影供稿）

옛날에 조선에
還郷女가 있었습니다.
지금도 남정들은
화냥년이라 부릅니다.

점잖고 약한 나라에
외적이
자꾸자꾸
쳐들어 왔습니다.

놈들은
나라치고
백성털고
여인까지 앗아갔습니다.

하여
수많은 꽃다운 삶이
이역땅에서
애꿎게 시들어 갔습니다.

허나
제어찌 오랑캐가
조선여인의 마음까지 앗아가랴
그녀들은 멀리 동방하늘을 우러러
還郷을 빌고빌었습니다.

사막을 지나
장성을 넘어
광야를 헤치며
그네들은 고국으로 돌아갔습니다.

허나
나라의 수처
남정들의 화냥년
차집고 더러운
냉대와 천시가
고작 그네들을 기다렸습니다.

혹은 목메여 죽고
혹은 머슴녀가 되고
혹은 윤락가로 팔려가고

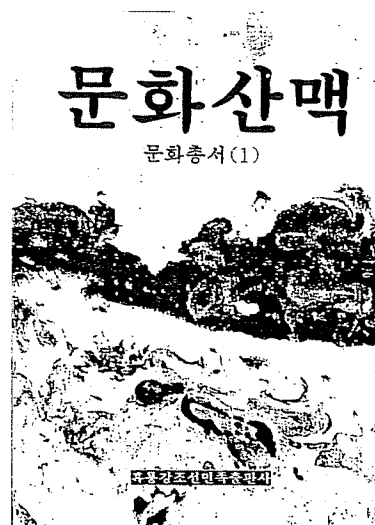
하, 還郷女
기막힌 신세
한많은 사연

점잖고 약한 나라의
남정들이여
오늘의 <종군위안부>와 더불어
<화냥년>이 불명예스러운 이름을
당신들의 입에서 지우자!

그리고 당신들은 아침노을 아름다운
점잖고 강한 나라의
남정이 되자!

「在日」3世詩人・丁章氏がサイン入
りで贈呈して下さった、延辺朝鮮族文化
發展会編集の「文化山脈」(1)

天池人文
여러분께
丁章氏
김광림 드림



中・高校に通っていたころから少し学
問めいたことを聞かれてうまく答えられ
ないと、親や周りの年長者から「お前ほ
んまに十年工夫南無阿弥陀仏だな」とよ
く言われたものだった。文盲の少なくな
かった親の世代から見れば中・高校に通
っているわがはなたれ小僧でもいっぱし
のインテリに映るらしかった。

ところで、この「十年工夫南無阿弥陀
仏」は韓国・朝鮮語(以下「韓国語」と
する)では日常よく使われていることば
で韓国語話者にはそれとなく意味がわか
るが、日本語や中国語では何の意味だか
ちよっと解しがたい。「南無阿弥陀仏」
は日・中・韓3カ国とも仏教の影響が満
遍なく行き渡っている国なので耳慣れた
ことばであるが、ネックは「工夫」なの
だ。ひょっとしたら「十年間工夫してや
っと解脱した」あるいは「十年間工夫し
て南無阿弥陀仏の唱え方を覚えた」と解
釈されるかもしれない。が、これでは
「歪曲」も甚だしい。

韓国語における「工夫」(공부/コン
ブ)は「あれこれ考え、よい方法を得よ
うとする」ことではなく、「勉強」の意
味だ。例えば韓国語に「工夫는 늙어죽
을때까지 해도 다 못한다/コンブヌ
ンヌルゴジュグルテカジ ヘド タア
モタンダ」ということわざがあるが、こ
れは「勉強は死ぬまでやってもやりきれ
ないものだ」という意味だ。現代風に言
えば「生涯学習」にあたるかもしれない。
従って「十年工夫南無阿弥陀仏」は「十
年も勉強したのが南無阿弥陀仏になっ

た」、つまり、長い間苦勞してなし得た
ことが一朝にして徒勞に終わることを比
喩して言った表現だ。文頭で述べた親や
年長者の言ったことばは「十年も勉強し
てまったく役に立たない」といったニュ
アンスを含み、元の意味とは微妙に違う
が、大方の意味は変わらない。韓国語に
おける「南無阿弥陀仏」は、阿弥陀如来
を拝むこと以外に「苦勞してやったこと
がご破産になる」意味を持つ。日本語の
「お陀仏になる」の意味に近い。

一方、韓国語の「 공부」にあたる日本
語は「勉強」だが、なぜ「勉強」が「学
習」の意味になったのか首を傾げたくな
る。なぜなら中国語でも韓国語でもまっ
たく別の意味になるからだ。「勉強」は
韓国語では辞書に載っているだけでほと
んど使われないが、中国語では日常よく
使われている。「不能喝就不要勉強」
(bùnéng hē jiù búyào miǎnqiǎng/フ
ンホ、ジュポヨ マンチャン)は「だめだったら、
無理することはないよ」という意味。つ
まり、韓・中では「無理矢理に、しい
て」の意味で、「勉強」の意味はない。

そもそも日本語の「勉強」にも古くは
「学習」の意味はなかったようで、昭和
32年に出版された新村出博士の「言
林」にも、「勉強」の項には「a. し
いて努めること、精出すこと、b. 学問に
身を入れること、c. 商品を安く売ること」とある。「勉」はもともと「無理
に力むこと」。日本で「勉強=学習」の
図式が生まれたのは、日本人が古来から
どれほど「無理」して中国の漢字にかじ
りついて「学習」してきたか、という精
神を示すものだろうか(韓国でもかじり

1998 年全国主要城市居民消费品调查

商品类型 (经常性消费品)	1998 年 9 月品牌市场占有率(%)			
	第一名	第二名	第三名	
方便面	康师傅	51.4	统一	19.7
奶粉	雀巢	21.5	安怡	6.3
味精	红梅	18.3	莲花	17.1
火腿肠	双汇	38.0	春都	14.7
食用植物油	金龙鱼	28.2	福临门	4.8
饼干	奇宝	10.6	达能	8.3
巧克力	德美	35.1	吉百利	11.7
夹心蛋糕	好丽友	10.9	圣安娜	3.0
泡泡糖	大大	63.2	比巴卜	10.1
果冻布丁	喜之郎	79.8	乐百氏	5.1
碳酸饮料	可口可乐	48.2	雪碧	18.4
果汁饮料	露露	11.1	椰树	9.0
功能性饮料	健力宝	43.8	红牛	22.9
包装茶饮料	旭日升	28.3	统一	12.9
包装水	娃哈哈	22.5	乐百氏	11.5
乳制品	乐百氏	9.3	光明	8.9
液体牛奶	光明	13.2	三元	6.4
雪糕/冰淇淋	伊利	20.0	和路雪	11.9
咖啡	雀巢	85.7	麦斯威尔	9.3
固体饮料	TANG 果珍	32.6	必是	12.6
啤酒	燕京	6.0	青岛	5.3
葡萄酒	张裕	18.5	长城	18.1
白酒	五粮液	10.9	茅台	10.4
卷烟	红塔山	15.0	555	9.2
健美减肥食品	康尔寿	21.1	美福乐	18.3
营养保健品	昂立一号	9.1	太太	5.3
衬衫	金利来	15.0	开开	7.9
牙膏	高露洁	20.5	佳洁士	15.2
牙刷	三笑	34.2	高露洁	24.2
香皂	舒肤佳	38.5	力士	31.1

商品类型 (经常性消费品)	1998 年 9 月品牌市场占有率(%)			
	第一名	第二名	第三名	
洗衣粉	奥妙	14.9	汰渍	14.5
洗发水/护发素	飘柔	27.3	海飞丝	9.9
沐浴露	力士	17.9	六神	14.3
家用清洁剂	白猫	34.6	安利	10.9
妇女卫生巾	护舒宝	32.2	安尔乐	11.9
化妆品	羽西	9.2	CD	8.8
护肤/润肤品	玉兰油	16.1	大宝	7.2
电池	南孚	19.5	金霸王	18.7
胶卷	柯达	47.9	富士	40.4
感冒药	康泰克	16.5	感冒通	9.1
电冰箱	容声	18.4	海尔	17.6
冷柜	海尔	29.4	澳柯玛	16.2
彩电	长虹	19.0	松下	12.5
空调	格力	13.5	春兰	11.2
电饭煲	三角	27.6	爱德	20.9
热水器	万家乐	18.3	前锋	7.8
洗衣机	小天鹅	19.4	海尔	9.1
组合音响	爱华	9.7	索尼	8.4
微波炉	格兰仕	42.4	松下	13.4
照相机	理光	22.3	佳能	12.3
摄像机	索尼	40.0	松下	32.0
电子琴	雅马哈	58.0	卡西欧	22.9
电话机	王牌(TCL)	18.0	步步高	6.7
移动电话	摩托罗拉	37.3	爱立信	28.6
VCD/CVD/DVD	新科	15.7	爱多	11.9
个人电脑	联想	12.6	IBM	3.8
摩托车	本田	13.7	嘉陵	12.4
私人轿车	夏利	20.0	桑塔纳	12.2
汽车轮胎	东风	7.4	万里	3.7
信用卡	牡丹卡	43.1	长城卡	18.5

两院院士评出 1998 年中国和世界十大科技新闻

- 一、国家水稻工程难题攻关取得突破性成果。
- 二、科考队徒步穿越雅鲁藏布大峡谷考察获丰硕成果。
- 三、我国转基因羊研究获重大突破。
- 四、全国 1:25 万大型地形图数据库建成。
- 五、我国第一根超导系高温超导输电电缆研制成功。
- 六、我国本世纪建成投产的最大水电工程二滩水电站两台机组发电，标志我国水电建设已进入国际先进行列。
- 七、我国人类基因组研究获重大进展。
- 八、我国在国际上首次把氮化镓制备成一维纳米晶体。
- 九、我国研制成功基因重组人胰岛素。
- 十、数字高清晰度电视系统研制成功。
- 一、美国科学家获得月球上存在水的证据。
- 二、“阿尔法”国际空间站计划正式开始实施。
- 三、美研制出世界上运算速度最快的电脑。
- 四、克隆技术取得一系列突破。
- 五、DNA 测序技术取得突破。
- 六、阿尔法磁谱仪升空并进行科学探测。
- 七、美国科学家提出克服排斥反应新方法。
- 八、全球铱卫星系统完成发射任务，并开始商业运作。
- 九、哈勃望远镜探测到距地球最远的星系。
- 十、日科学家宣称中微子具有静止质量。

●인터뷰——조선족 첫 국어학박사 梁伍鎮씨

고려~조선시대 중국어회화책 연구

조선족이 처음으로 국내에서 국어학 박사학위를 땀다. 지난 25일 고려대 후기학위 수여식에 참가한 양오진(梁伍鎭·44)씨가 그 주인공. 교포2세인 양씨는 북경 중앙민족대학과 북경대에서 조선어를 공부, 북경대에서 조선어를 가르쳤다. 한중수교 이후 한국어 교육의 필요성을 절감한 양씨는 94년 1학기부터 고려대 국문과 박사과정에 입학, 이번 졸업식에서 「노걸대(老乞大)」, 박통사(朴通事) 연구라는 논문으로 박사학위를 받았다. 그의 논문은 고려시대부터 조선시대까지 외국어 교육기관인 사역원에서 중국어 회화교재로 쓰이던 「노걸대」와 「박통사」의 원문을 연구한 것. 이 책들은 원래 한문으로만 쓰여져 있다가 훈민정음 창제 후 주음과 해석인 언해본이 곁들여 있어 국어학에서도 귀중한 자료로 인정받아 왔다. 지금까지 언해본에 대한 연구는 이뤄져 왔으나 원문에 대한 체계적 연구는 이번이 처음이다. 96년부터 덕성여대 중문과 초빙교수로 강의를 맡고 있는 양씨는 「한학사와 역사에 대한 연구를 계속하고 국어학 연구성과를 중국에 알려 양국간 학술교류에 도움이 되고 싶다」고 말했다. <宋東勳기자·dhsong@chosun.com>

ついたが、どうもかじり方が違うようだ)。

では、中国語では「勉強」のことをどういうかという、と、「学(習)/xuéxi」だ。「好好学习，天天向上」(hǎohàoxuéxí, tiāntiānxiàngshàng/よく勉強して日々向上しよう)と墨書した貼り紙が黒板の上方にでかかと貼ってある教室が懐かしい。

“혁명동지 悲報에 쇼크 金日成 심장발작 사망”

●香港일간지 보도

묘향산별장에 심장약 없어

폭우속 헬기추락 이송지연

94년 7월8일 사망한 김일성은 하계 휴양지인 묘향산 별장에서 남북정상회담 준비를 직접 지휘하던 중 혁명동지의 사망 소식에 충격을 받고 심장발작을 일으킨 것으로 알려졌다.

홍콩의 중국어 일간지 원후이바오(文匯報)는 10일 다롄완바오(大連晚報)를 인용, 「김일성 종사(葬死) 수수께끼」란 제목으로 김의 사망에 얽힌 이야기를 게재했다.

김일성은 94년 6월16일 방북한 지미 카터 전 미국 대통령이 한국 정부의 초청 소식을 전하자 몹시 흥분한 상태에서 낮에는 카터와 장시간 회담을 갖고 밤에는 문서를 처리하는 등 매일 10시간 이상을 공무에 전념했다. 김은 카터가 돌아간 후 부인 김성애(金聖愛)의 걱정에도 아랑곳하지 않고 휴식 없이 남북한 정상회담 준비를 지휘했다. 또 농작물 발육상태 등을 관찰하기 위해 농촌시찰에도 나섰다. 김은 황폐한 농촌과 일

글이 누르고 강마른 주민들을 보고 「혁명의 목적은 이것이 아니었다며 자신이 영도력이 없다는 것을 한탄했다.

7월7일 저녁 김일성은 묘향산 별장에서 14세 때부터 항일투쟁에 참가한 혁명동지 조명선(趙明善·당시 75세)상장(中장)의 사망소식을 듣게 된다. 조는 군중참모부 부총참모장을 지낸 북한군의 원로.

김일성은 병원장을 불러 사망원인을 물으며 「왜 그를 살리지 못했다」며 크게 화를 내다 갑자기 급성 심장발작 증세를 일으키며 바닥에 쓰러졌다. 그러나 김일성은 이전에 심장병력이 없어 별장에는 심장병약이 비치되지 않았다.

결국 김일성은 응급치료를 받은 후 북한의 최고급 의원인 평양의 봉화(烽火)의원으로 옮겨졌다고 한다. 그러나 폭우 속에 날라오던 첫번째 헬기가 산중턱에 추락했다. 두번째 헬기 또한 필사의 노력 끝에 별장 50m 밖에 착륙, 일행들이 우산을 덮은 채 김을 간신히 비행기로 옮길 수 있었다. 그러나 김일성은 병원 도착 두시간만인 7월 8일 새벽 2시 심장이 영원히 멈췄다. /김혁기자

1 月 4 日、NHK 国際放送局・国際編

成部の松沢幹資副部長から金光林氏宛てに天池倶楽部の日本における活躍を高く評価する手紙が送られてきた。松沢氏ご本人の許可を得て、手紙をそのまま転載した。(編集部)

年末には、忘年会のお誘いをいただき、まことにありがとうございました。

当日は残念ながら仕事とちがってしまい、出席することができず、申し訳ありませんでした。これまでもお花見や忘年会など、何回もお誘いをいただいているのですが、いつも仕事と重なって出席できず、本当に残念に思っています。また、次の機会にも何かありましたら是非ご案内いただければと思います。

また、送っていただいた「天池人文」誌を読ませていただきました。日本において、延辺の皆さんがここまで活躍されているのかと瞠目の思いでした。

すでにVOL2-N07とのことですので、これまでの積み重ねがたくさんあったのだと思います。もし、費用が必要ならお払いますので、今後「天池人文」誌を継続して読ませていただくことはできないでしょうか？

ところで、私は昨年夏の人事移動で、同じ国際放送局の中ですが、「国際編成部」というところになりました。テレビの国際放送を担当するところなんです。今後とも延辺には興味をもって関わっていきたいと思っています。

職場、または自宅にご連絡いただければ幸いです。

NH K 国際放送局・国際編成部
副部長 松沢幹資
平成11年 1 月 4 日

给·您·代·办

(1) 日本語学校の申請・報名手續 (2) 報名材料翻譯等业务

(1) 语言学校的报名手续

○代办手续简单, 只要交付所需报名材料以及代办费用即可。

○代办手续费：5万日元（包括报名费和翻译费），办成也不受任何费用，不过，一定要由日本的代理人直接邮寄或自带报名人的材料以及费用才可。

○每年招4次，每次报名截止日期为：2月10日，5月10日，8月10日和11月10日。

（2）报名材料翻译业务

中国人报语言学校时，向报考学校要交很多材料，这些材料都必须得翻译成日文。入国管理局根据这些翻译材料进行审查，故翻译质量的好坏涉及到该报名者能不能取得「在留资格认定书」的问题。所以，各语言学校非常重视材料的翻译，有的学校甚至收3万日元的翻译费。

本所根据这些情况，廉价给大家代办语言学校报名材料翻译业务。翻译每1份材料只收一万日元（包括邮寄费），一次拿五份以上时，每份只收8千日元。如果由于翻译上的问题，语言学校不受理材料时，其翻译费用全部退还。

联系地址·电话：

〒105-0003 東京都港区西新橋2-13-16 多田ビル4F

電話・FAX：03-3592-9005 携帯：090-42086445

日・中・韓 語学研究所 担当：李、中村

*每人接电话时,可利用传真或手提电话.

關於召開第47次天池俱樂部
定例會的通知

以討論天池俱樂部 and 『天池人文』發展問題為議題的第47次天池俱樂部定例會，將在本月底召開。對天池俱樂部以及『天池人文』事業抱有愛心的各位，歡迎在百忙中積極參加。

時間：1月31日(星期日) 2時—5時

場所：東京都文京区役所 3階 会議室B室

천지구락부 서로돕기코너 수수료에 관한 규정

천지구락부 理事會 사업부에서는 천지구락부 회원을 중심으로 일본에서 살고있는 우리 중국조선족들의 交流, 協力, 共同發展을 도모하기 위하여 서로돕기 사업을 하기로 결정했습니다. 회원여러분들의 많은 성원을 부탁드립니다.

구체적인 사업내용과 수수료는 아래와 같습니다.

1. 아르바이트 소개-----아르바이트 소개가 성공되면 소개받은 사람은 소개한 사람에게 사례금으로 2萬圓을 지불해야 한다

2. 주택소개-----회원의 소개로 집을찾아 들게되면 소개받은 사람은 소개자에게 謝禮金으로 1萬円 지불해야 한다.

3. 주택 聯帶保證人 소개-----주택 聯帶保證人을 소개받을 경우 소개받은 사람은 소개자에게 1萬5千円을 謝禮金으로 지불하는 동시에 1개월 집세에 상당한 금액을 押金으로 천지구락부에 지불해야한다. 단 押金은 계약이 끝나면 全額 본인에게 돌려드린다.

4. 대학원 지도교관 소개-----대학원 지도교관을 소개받았을 경우 소개받은 사람은 소개자에게 謝禮金으로 1萬円 지불해야한다.

★이상의 서로돕기 謝禮金은 일체 천지구락부 사업부를 통해 행해지므로 상호간의 聯絡은 천지인문 혹은 理事들을 통해 할수있습니다. 사례금은 천지구락부에서 수수료로 10%제하고 나머지는 全額 소개자에게 드립니다.

다음기부터 이상의 事業에 대해 소개받고 싶은 사람과 소개할수 있는 사람을 천지인문에 掲載해 드립니다. 회원은 무료이고 회원이외의 분들은 1件掲載하는데 千円씩 비용을 받습니다. 적극 利用해 주시기를 바랍니다.

[illegible]

廣告를 모집합니다

本誌에서는 다음기부터 광고를 대량적으로 모집합니다. 상업성광고는 잠시 1 件당 회원은 무료 혹은 5 千円以下, 회원이외 중국조선족들은 5 千円부터 1 萬円以下, 그의 사람은 1 萬円부터 2 萬円以下로 합니다. 광고를 모집해오는 분들에게는 전체광고액의 절반 (5 0 %) 를 謝禮金으로 지불합니다. 천지구락부의 번영과 발전을 위하여, 개인의 호주머니를 불특히 하기위하여 광고모집에 일떠서기를 바랍니다.

关于建立在日中国朝鲜族信息库

「中国朝鮮族研究会」
成 立

1999年1月10日、東京・新橋で、「中国朝鮮族研究会」が在日中国朝鮮族を中心に設立された。当研究会は、政治、経済、文化、言語、歴史など各分野にわたって、朝鮮族に関する学術研究・交流活動を行い、中国少数民族研究の一環として、着実な研究活動を行うことを趣旨とする。

当研究会の運営組織として、李東哲が研究会代表に選ばれ、事務局は白榮勲が担当することになった。また、幹事会を置き、研究会の運営・組織などの事務に関し協議することにした。研究会幹事は上記の二名のほか、崔光日、李哲権、金光林、李鋼哲など六名で構成される。

今年度の研究内容は、中国朝鮮族に関する先行研究成果の調査、文献資料の収集および目録の作成である。それに基づいて、来年年初に研究報告書を作成する予定である。

なお、初回の研究会は、諸般の事情により、3月中旬に開催予定であるが、設立初期の煩雑な準備業務などの関係もあり、具体的な内容および場所などについては、後日お知らせする。

「中国朝鮮族研究会」事務局

住所：〒105-0003

東京都港区西新橋 2-13-16 4階-A

TEL・FAX：03-3592-9005

(付：『中国朝鮮族研究会設立案』)

『中国朝鮮族研究会の設立案』

(1999年1月起草)

一、研究会の宗旨

中国朝鮮族の政治、経済、文化、言語、歴史など各分野における学術研究活動を行う。研究活動を通して、北東アジアにおける朝鮮族の地位と役割を探究する。

二、研究活動と内容

1. 定期的に勉強会を行い、朝鮮族研究に関する諸問題について意見交流をする。
2. 個人研究の成果を発表する。
3. 中国朝鮮族に関する諸分野の研究成果、文献資料などを収集し、リストの作成および翻訳・出版活動を行う。
4. 共同研究に基づく研究報告書、論文をまとめて出版する。
5. 中国、日本、韓国、朝鮮など諸国の研究機関、大学と密接な連携を保ち、各種の学術交流活動を行う。

三、研究会の性格

1. 本研究会は学術研究団体として存在する。研究会は科学的な態度に基づき、各種の研究活動を行う。
2. 本研究会は、「中国朝鮮族」研究に関心をもつ者により成り立つ。

【动机】中国改革开放の进一步深化、促使越来越多的中国朝鮮族向海外进军、由于历史的特殊原因其大部分都集中在日本。而冷战的结束、世界经济的世界化、使国家之间的距离也越来越小、世界也就需要越来越多的国际化的人才。在这一方面中国朝鮮族具有得天独厚的条件、特别是在日本的朝鮮族基本上都能讲中、韩(朝)、日三国语音、有的还能讲英语、还具备各自的专业知识、而且我们与中、韩(朝)、日三国在血缘或地缘上具有密切而不可分割的关系。时代在等着我们去发挥和贡献。为了更好地发挥自己的长处、我们之间的各种交流是必不可少的。为此、天池俱乐部(代表:朴鶴)拟建立在日中国朝鮮族信息库。

【目的】为促进在日中国朝鮮族之间的交流及发展。

【对象】本信息库基本上以在日中国朝鮮族为对象。

【运营】本信息库将由天池俱乐部理事会指定人员进行具体运营管理。

【登记】本信息库的登记、将采取自愿的方法、储藏个人信息及其他信息。

【服务】在经本人同意的前提下、公开和提供有关个人信息及其他信息。

【负责】金万寿 〒181-0013 東京都三鷹市下連雀 6-2-34 T 14 62C-102

TEL: 0422-79-3750 E-mail: jinws@ibm.net

天池俱乐部理事会理事

天池俱乐部理事会准备把本信息库作为一个促进我们在日中国朝鮮族之间交流及发展的具体项目。本信息库的建立及运营的成败固然于我们理事会的运营能力有关、更重要的是大家的关心和协助。希望大家踊跃参加及利用。

-----切取り-----

在日中国朝鮮族データ・バンク申込書

年 月 日

姓 名		1. 男	生年月日	年 月 日 生			写 真
		2. 女	出生地			国籍	
住 所	〒						
	電話				FAX		
	E-mail						
勤務先							
	職務			電話		FAX	
最終学歴	(年 月 卒業)						
所持資格	1. 2. 3. 4.						
特 技				趣 味			
経歴及び自己PR							

中国朝鮮族 1998 年忘年会開催

■天池倶楽部VS延辺大学学友会親善サッカー試合も挙■

1998年12月27日（日）、「在日中国朝鮮族1998年忘年会」が在日本韓国YMCAの国際ホールで開催されました。

当日は、まず午後1時半から3時まで四谷第一中学校の運動場で天池倶楽部VS延辺大学学友会の親善サッカー試合が行われました。中国朝鮮族のサッカーの平均的レベルが高い上に、元プロチームの選手も数人試合に参加していたので、両チームとも水準の高い試合が展開できたとし、運動を通して久しぶりにいい汗を流しました。日本に来ている朝鮮族の中には、サッカーがよくできる人が多いので、在日朝鮮族サッカーチームを結成して、日本のいろんなチームと親善試合を行うなら、朝鮮族の知名度を大いに上げることができると思われました。

午後5時半から忘年会が始まり、愉快的雰囲気の中で懇談を交えたパーティーが7時半まで続きました。

7時半から、黄正浩・白蘭両氏の司会で、懇談会が始まりました。懇談会は、社交ダンス、椅子取り、風船遊び、紅白歌合戦などの多様な内容を以て進行されました。夜10時過ぎになって、参加者全員で『故郷の春』『アリラン』を合唱した後、記念写真を撮り、会場を片付けてから、解散しました。

今回の忘年会は在日中国朝鮮族の有力な団体である天池倶楽部と延辺大学学友会が共同で開催し、参加者も70名以上になるなど、盛大で意義のある朝鮮族の集会となり、参加者に3分間の無料国際電話サービスも提供できました。他に忘年会には、『セヌリ』雑誌社の朴鉄民編集長、在日朝鮮人蹴球団李清敬監督、朝鮮族歌手南英姫女史も参加されました。

今回の忘年会のために、多くの人が私心のない協力をしました。画家安学哲氏が天池倶楽部VS延辺大学学友会の親善サッカー試合にユニホームを無償で提供し（ユニホームは今後在日朝鮮族サッカーチームの運動服として使用する予定）、金光林氏が運動場（無料）と忘年会の会場（通常料金の4分の1）を借り、鄭杰氏が国際電話会社と交渉して3分間の無料国際電話サービスを提供しました。そして、金尚太氏がユッノリ道具を自費で作製、李東哲氏（遼寧）、尹昌洙氏が飲料・ギョーザ・果物・食器などを買い、自分の車で運んできました。忘年会の会場では、金万寿・徐光哲・崔光日・楊光日の四氏が食事の時間を犠牲にしながら受付の事務を担当しました。



1998年在日本中国朝鮮族忘年会開催
(各写真は50円/一枚でご提供中)



1998年天池倶楽部vs延辺大学学友会の親善サッカー試合

天池倶楽部からのお願い

当倶楽部は中国朝鮮族の交流を促進することを目的とした非営利組織です。交流、協力および共同発展をモットーに共に活動して行きたいと思えます。活動は会員の皆さんの会費と寄付金により運営されており、毎月最後の日曜日の午後、文京区役所で定例会を行います。また、会員様に「天池人文」をお届けします。今後とも暖かいご支援を賜りますようお願いいたします。

年度会費

正会員 3000円

学生会員 1000円

振込先： 東京三菱銀行 小飯田橋支店

テンチクラブ インショウシュ サマ

0005-071-0228416

フリーマーケット

バーゲンセール：26型自転車を買ったばかりですが、新年早々また新しい26型自転車をプレゼントされました。そこで、欲しい人がいれば譲りたいと思えます。原価は3万円ですが、1万円で譲ります。梱包したままで、ユーザー登録済みです。欲しい方は金ヘイ哲（090-83427105・携帯）または「天池人文」編集部（03-3592-9005）までご連絡ください。

編集後記・편집후기

「天池人文」は第18期から増ページして以来、内容も多様になり、次第に雑誌の形を整え、会員皆様から好評を博しています。また、会員以外の方々からも深い感心を寄せてくださり、激励の手紙や図書を送ってくださった方もおられます。神保町にある朝鮮専門書店・レインボー通商宮川社長の好意で店内に「天池人文」第20期を10部置かせていただいたところ、あっというまになくなり、追加で6部送っています。「天池人文」の明るい兆しが見えてきたような気がします。会員皆様やその他のの方々の一層のご声援とご指導をお願いしたいと思っております。（「天池人文」編集部）

本の主人公になりませんか

中国朝鮮族の作家であり、我々の尊敬すべき先輩である金文学氏が、現在『日本の中の中国朝鮮族群像—在日中国朝鮮族の自白』という本の出版を計画しております。

すでに中国留学生の留日体験をまとめた本が国内で出版され、ベストセーラになったことがあります。

我々日本にいる中国朝鮮族もこの機会に各自の貴重な体験を世間に披露してみたらどうでしょうか。

本を出すと言えば、必ず日本で博士学位を取ったとか、事業に成功したとかという人たちだけの特権的領域であると思われがちですが、実はそればかりが中国朝鮮族の日本体験ではありません。

日本に来て、日本語学校でさまざまな壁にぶつかり、それを乗り越えようと一所懸命に頑張る姿、日本の大学院で生活難に喘ぎながらも学問の真理を求める道のり、空の上の雲でも掴もうと夢を膨らまして事業を起こした経営者の悪戦、会社に就職して一見安定したように見えても自分を見失わないための静かなる苦闘、やむをえない事情により不法滞在して光の见えない地下世界で積んでいる人間修業、日本人と結婚して一日24時間も経験している異文化体験—これらのすべてがりっぱな人生譚であります。あなたにはごく平凡に見える事も、中国でこれから日本を目指す人々には本当に貴重な経験であり、日本進出の指針にもなると考えられます。

我々の先輩—金文学氏はすでに中国・韓国・日本で活躍されている作家であります。彼は、今回『日本の中の中国朝鮮族群像—在日中国朝鮮族の自白』を中・韓・日三国で出版することを計画しております。うまく行けば、貴兄・貴女は中・韓・日三国で主人公になる可能性があります。ぜひ、この機会に我々が本の主人公になりましょう！ 自分を中・韓・日三国で思い存分アピールしましょう！ そして各自のさらなる発展を図っていきましょう！ 我々だってバカではありません。やろうと思えば何事でもできるのです。

『天池人文』編集部は、皆様が金文学氏の呼びかけに応じて本の主人公になることを強力にお勧めします。

さあ、迷わず筆を執りましょう！

《天池人文》編集部敬白

[일본속의 중국 조선족 군상-재일 중국 조선족의 자백]

원고 청탁서

현재 일본속에는 6천여명의 중국 조선족이 살고 있습니다. 우리 조선족 역사상 전례 없는 일본 진출의 “대군”을 형성하고 있습니다. 유학, 취학과 취직, 결혼의 길에서 이문화의 체험을 쌓으면서 분발하고 계실 뿐만아니라 학계, 비즈니스, 매스컴, 연예계 등 제 분야에서 활약하고 있는 분들이 많이 계십니다.

일본에서의 조선족의 분투의 발자취를 기록하고, 재일 중국 조선족의 활약상을 중국 동포들에게 알리며, 중국과 일본 양국의 친선 교류와 이해에 기여하자는 취지로 이번 흑룡조선민족출판사와의 계약으로 우리는 “일본속의 중국 조선족 군상-재일 중국 조선족의 자백”을 편집, 출판하기로 했습니다.

이에 특히 원고 청탁을 드리오니, 부디 공사간 다망하신 가운데 좋은 글들을 보내 주시길 부탁드립니다.

중국 조선족 역사상의 한 페이지를 장식하는 이 쾌거에 당신의 발자취를 남기시지 않겠습니까? 여러분의 뜨거운 성원과 지지를 부탁드립니다. 상세한 집필 요항은 하기와 같습니다.

집필 요항

*집필 취지: 국내 조선족 독자들에게 일본에서의 생활상을 알리고 일본에서의 이문화체험과 삶의 이야기를 기록하고자 합니다.

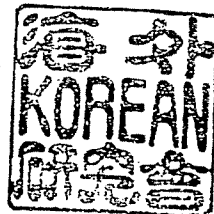
*집필 요구: (1) 제1인칭, 진짜 인물과 사실, 진지한 감정과 개성특색
(2) 6000자안팎
(3) 저자약력(600자안) 및 사진 1매
(4) 집필 언어: 조선어 (부득이한 경우 중국어도 가능)

*마감 기일: 1999년 4월 30일

*원고 보낼곳: 〒730-0011広島市中区基町18-1-2062

海外KOREAN研究会 代表 金 文学

TEL兼FAX: (082) 223-2698



ようこそレインボー通商へ (2)

조선어전문서점에 어서 오세요.

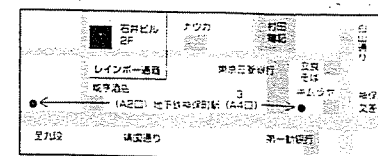
中国で発行された、あるいは中国に関する図書で、現在あるもののご案内です。

「정판통문집 2」「중조일관계사 (상)」「中朝韓日関係史研究論叢 (1)」「한조실용사전 (漢朝實用字典)」「走向 21 世紀的中国婚姻家庭」「長白山下の民俗と旅遊」「커피의 녀을 지켜」「중국 전통 약술」「조선족전통미덕-명문장, 경구, 속담」「조선족바른례절」「조선족전통미덕이야기」「조선족례절」「조선학연구 제 2 권」「조선학연구 제 4 권」「세계속의 우리민족」「전설도상의 전국모범자치주-연변」「조선민족의 성씨와 본」「오늘의 연변」「中朝韓日関係史研究論叢(1)」「抗美援朝保家衛國研究」「회고와 전망」「中国正史中的朝鮮史料 1・2」「이야기 조선력사」「발해사연구 제 3~6 집」「延辺朝鮮族自治州志上、下」「중국조선민족발자취총서 2, 3 (中文), 4」「조선한문학사 (朝鮮漢文學史)」「중국조선족교육의 현황과 전망」「KOREAN 규범문제와 관련한 국제학술토론회논문집」「한조실용사전 (漢朝實用字典)」「新華字典 (修訂本)」「客家方言語法研究」「조선말사전 1, 2, 3」「《훈민정음》반포 550 돌 기념논문집」「簡明朝漢詞典」「중학생기초작문」「조선족전통미덕 명문장, 경구, 속담」「조선말 《4 법》 규범 학습지도」「韓國語慣用句型」「의무교육소학교교과서 조선어문 第 1, 3, 4, 7~9, 11, 12 卷」「의무교육초급중학교교과서 조선어문第 1~5, 7, 8 卷」「고급중학교교과서(시용본) 조선어문 제 1 권」「고급중학교교과서 조선어문 1 학년용」「고급중학교교과서 조선어문 2 학년용 第 1, 2 卷」「고급중학교교과서 조선어문 3 학년용」「조선언어문학론문집」「조선언어문학국제토론회 논문집」「조선어문 상・하」「조선말새말사전」「특용 우리말사전」「朝中辭典」「학생용 등의 어 반의어 등음어 사전」「백두—한라제 10 호 100 일추모회프로그램」「朝鮮現代小説芸術模式研究」「조선고전문화사」「문학과예술」「고향을 떠나 50 년」「홀리칸 세월 <리근절 수필집>」「김길련 작품집 <수필편/실화편/소설편>」「정백리이야기」「中国圖們江地區—延辺」「図們江開發構想」「모택동선집 1, 2, 3」「중화인민공화국약전」「東北流入史」「內蒙古風物志」「黑龍江少数民族風俗」「黑龍江風物志」「遼寧風物志」「北京週報」「第一次 KOREA 学 國際交流세미나論文集」「훈춘 방천 려행기념」「중화인민공화국법률회집 1994-1995」「중화인민공화국 헌법 수정초안」「소학교력사지도첩」など。

この他、朝鮮の新しいサッカーユニフォームの販売などを通じて、2002 年サッカーW杯北朝鮮地域部分開催に向けて、ささやかながら雰囲気盛り上げていきたいと思っています。

レインボー通商 神保町 2-12 石井ビル 2F Tel/Fax 03-3239-8887

朝鮮が今、あなたを待ってます。



朝鮮専門書店 レインボー通商
千代田区神田神保町2-12
石井ビル (絵のあるビル) 2 F
TEL/FAX 03-3239-8887

天池人文

천지인문

CHONJI CULTUER

は日本在住の中国朝鮮族が作る月間生活総合誌である

일본에 사는 중국조선족들이 만드는 唯一한 잡지

在日中国朝鮮族办的独一无二的杂志

欢迎订阅天池人文

천지인문을 구독하시기 바랍니다

購読を歓迎します

1部300円、年間購読料3,000円。会員は無料（但し、会費を納めた会員に限る）。会員以外の方で中国朝鮮族の場合、購読料は年間2,000円。申込は「天池人文」雑誌社まで電話またはFAXで。

毎月20日発行

編集部住所：〒105-0003 東京都港区西新橋2-13-16 多田
ビル4F-A 日・中・韓語学研究所内
TEL/FAX 03-3592-9005

発行：天池倶楽部 CHONJI CLUB

編集委員：金炳哲、金万寿、金光林、陳万哲、李東哲（編集長）